（二面から続く）

かれた特色ある学校づくりを積極的に展開し、特に生きる力の育成に向けた教育活動では、発達段階に応じた年間計画に基づき地域の教育力を活用し進めています。その結果、受け身的学習だった生徒が、みずから計画、問題解決し、自分の考えを表現できる主体的な学習姿勢があらわれる状況になってきています。

道徳の授業では、各学校とも準教科書や文科省の心のノートなどを工夫して活用し、年間三十五時間の授業を確保しています。特に南中学校では昨年と今年に文科省の指定を受け、道徳教育の研究を推進しています。今後とも道徳教育の充実に向けて努力したいと考えています。

産学官の連携で地域再成を

安斉議員（自民党明政会）

市長の政治姿勢について

最近、産学官連携による地域再生ということばを耳にしますが、これは、文化も価値観も違う集団が一緒になると新しいものが生まれるということです。「日本は単一民族である限り新しいものは生まれない」と学者が説いています。そこで、異なったものを受け入れる姿勢が大切で、産学官の連携は地方でこそ取り組む必要があります。この連携は、新しい雇用を生み出し、地域経済の循環モデルをつくることもでき、少子高齢化も解消されると言われています。特に若い世代が地域に集まらないのは、高度成長期のようなわくわくした雇用の場がないからであって、そういう雇用の場を地域の中で産学官が連携してつくれば、地方は自然に活気づくと思います。本市はどのような取り組みをしているのかお示しください。

また、工業会補助事業の中で、異業種交流会の進捗状況をお示し願いたい。

市長　産学官の連携は、発想者が一つの考え方として関係する自治体に協力をいただきたいと述べられているものと私は理解をしております。

環境経済部長　座間異業種交流研究会は九名の会員で組織されており、会員の経営交流の場と、各企業の発展のために、啓発と相互協力並びに親睦を図ることを目的として活動されています。平成十七年度は、月一回の定例会と県外研修会、交流懇談会などを計画されており、昨年からは担当課職員も参加させていただき、情報交換なども行わせていただいています。

アスベスト対策の取り組みを問う

柏木議員（日本共産党）

アスベスト問題について

日本共産党市議団では、七月二十五日アスベスト（石綿）対策について、市として市民の不安を解消するため特段の体制をとる必要があると、市当局に「公共施設の石綿建材使用状況を調査、結果を公表すること、不特定多数の出入りする民間建物に石綿建材使用状況の調査を指導すること、市民が相談に来ても窓口がないので早急に体制を整え、すばやく市民に対応することなどについて緊急の要請をした。

市民から、北地区文化センターの倉庫の壁はアスベスト建材使用ではないかとの問い合わせに、当初、市は使用を否定していました。その後調査したのでしょうか。

一九八七年当時、アスベストではないとして除去対象から除外された製品があった。小・中学校では当時吹き付けアスベストは除去したとしているが、今回除外製品についても調査したのでしょうか。

高度経済成長期に建てられたマンションなどは老朽化し、建て替え時期に来ている。アスベスト使用調査や除去時の飛散対策についての費用補助を求めます。

アスベスト使用禁止の国内法の整備を怠り、国際法が出来て十九年も批准しなかった国の責任は重い。市は、国に対し、国及び企業の責任において、費用を含めた対策をとるよう強く求めてほしい。

助役　八月四日に総合相談窓口の開設を決めた。建材にアスベスト含有の疑いのあるものが北地区文化センターなど十六カ所あったので調査委託をし、結果を公表します。

道路反射鏡に管理票取り付けを

稲垣議員（公明党）

道路反射鏡の管理について

昨年の全国交通事故件数は過去最高の約九十五万件、そのうち出会い頭による事故は約二十四万件で全体の二五％に相当します。

中でも特に多いのが、信号機のない交差点に一時停止せずに進入することから起きる事故です。そんな出会い頭事故の防止に役立っているのが道路反射鏡、つまりカーブミラーです。本市は、交通事故防止に力を入れられ、カーブミラーを積極的に取り付けられており、その数は市内県道に三十一カ所、座間市道に千二百三十二カ所となっています。

先般、日本人間工学会よりカーブミラーと出会い頭事故との関連性についての調査発表があり、カーブミラーが交通安全に貢献しているとの評価は三三％で、残りの六七％の欠陥のカーブミラーが車両進行の障害になっているとのことでした。本市においても、せっかく設置したカーブミラーがトラック等の接触により、欠陥のカーブミラーとなっています。この欠陥のカーブミラーに気がついた市民やドライバーは、事故防止のため一刻も早く管理者に連絡をしたいのですが、防犯灯のような管理番号がないので場所や欠陥内容を説明しづらいばかりか連絡先もわからず、そのまま放置されている状況です。早急に市内にあるカーブミラーに管理票を取付けて、欠陥のカーブミラーに対していつでも誰からでも連絡できるように要望します。

都市部長　今後防犯灯等を参考に連絡方法について検討してまいります。

竹市議員（市民連合）

個人情報保護に関して

六月定例会では、国勢調査のあり方について具体的に議論しましたが、根本的に改めなければならないというのは既に共通認識になっていると思いますので、直前に迫った今回の調査について、本市としての対応を伺います。

まず、調査票を受け取った際、未記入箇所への記入をどの程度促すよう調査員に指導するのかお聞きします。

また、今回は封入提出が認められましたが、封筒の表書きではそのまま渡すのが原則と強調しているため混乱を招きます。前回の密封シール方式でも見られて困ることがあるのかと調査員に言われたり、目の前ではがされたりという事例が多数報告されています。トラブルを避けるには横浜市が決定した全世帯封入提出方式しかないと思いますが、検討結果の説明を求めます。

国勢調査　全世帯封入方式を

さらに問題なのは、提出後に開封されても全くわからないことです。封入提出の安全性を担保するなら調査票側に何らかのチェックをする必要がありますが、そういう防止策の意思があるのか伺います。

なお、防止策ができない場合は、役所への持参や郵送を明確に認めるべきだと思います。考えをお聞きします。

企画財政部長　未記入の場合には最低限、世帯の人数、男女別程度の記入をお願いします。封入提出については、あくまでも本人の選択に任せるという考えです。質問の趣旨はよくわかりますが、機会を見て県などに相談し、実施状況の報告時に国に意見を上げたいと思います。

新人事管理制度を問う！

沖本議員（市政クラブ）

行政改革における手法と取り組みについて

地方分権という環境の変化は、地方自治体にとって今まで受け身的だった体質から、みずからの責任で事業を企画し工夫をしながら推進するといった体質へ転換せざるを得なくなった。地方自治体も組織の存続をかけた危機感をもって、改革に取り組む意識を持たなければならない。地方自治体という組織経営の中で、新しい人事管理制度の整備や機能を高めることが必要だ。民間企業では既に能力主義・成果主義が定着している。能力・成果を測るうえでは「目標管理制度」が多用されている。

名古屋市・神戸市など既に「目標管理制度」導入の検討・試行を行っている自治体も多い。平成十七年度行政改革実行計画には「新たな人事管理制度の導入」が示されている。公務員制度改革を見据えての改革・改善項目だと推測するが、どのように推進されるのか具体的に伺いたい。

市長　「新たな人事管理制度」は庁内組織で「座間市人事評価制度検討委員会」を設置し、公務員制度改革大綱をもとに検討を行っている。

人事評価制度の基本的な考え方としては、上司と部下のコミュニケーションを重視し、共通の認識のもとに、職務目標を達成していくプロセスの中で人材育成を図るとともに、評価される側が納得できるような制度を検討していく。基本的な考えとしては試行を平成十九年度からと考えている。正式な導入については試行結果を踏まえ検討し、最終的には全職員を対象に考えている。

打ち上げ花火の再開を！

佐藤議員（政和会）

市民生活と音声による市民周知について

昨年より、市のイベント、小・中学校の運動会、体育祭の開催を知らせる打ち上げ花火や消防出初式を知らせるサイレンなどが中止されました。理由は情報伝達手段の発達やそのことを踏まえての必要性、生活環境の変化や病人などに対する配慮なども含めてということでした。しかし、特に小・中学校の運動会、体育祭の開始を知らせる打ち上げ花火に関しまして、再開をしていただきたいという要望が多く上がっております。

座間市では開かれた学校づくりが行われ、運動会などに多くの地域の方々を招待しております。しかし、現在、こういった方々に運動会の実施をお知らせする手段がありません。また、生徒、児童の家庭でさえ外国人の保護者の増加や家庭環境の変化により、学校の緊急連絡網がうまく機能しないという現状もあります。情報伝達手段の発達を中止の理由にしていますが、こういったことを考え合わせますと、打ち上げ花火を再開するか、メールの一斉送信システムなど別な周知方法の確立を構築しなければならないと考えますが、このことに対します市の考えをお伺いします。

教育部長　地域には打ち上げ花火に対するさまざまな考えを持った方がいらっしゃるので、より多くの方にご理解をいただかなければと考えています。また、学校の緊急連絡網に関しては、機能しづらいと認識していないため、別な周知手段の構築にまで考えが至っておりません。

「梨の木坂」歩道の拡幅を

伊田議員（政和会）

交通安全対策について

市道1号線の「梨の木坂」は、特に朝の通勤、通学時間に人の行き来がピークを迎え、主に座間地区、入谷一・二丁目地区、新田宿・四ツ谷地区から坂を上って座間駅に向かう人たちと、入谷小学校に通う児童を中心に坂を下る人たちが大変不便を感じる所であり、事故の危険性が非常に高い所であります。朝の八時前後の歩道は、児童たちとすれ違うには狭く歩きにくいために、歩道の外の車道を歩いて坂を上る人、自転車やベビーカーを引く人などが多く見られます。雨が降る朝は、傘をさしているので状況は最悪になるわけです。原因は、もちろん片側だけの歩道と、その歩道も狭いというところにあります。

次に座間駅西側のスクランブル交差点についてですが、

（四面に続く）